

論文要旨

本研究の目的は、日本において社会的養護に携わる支援者を対象としたスキルトレーニングプログラムを開発し、支援者つまりケアの担い手の専門性を向上させることによって、ケア体制の確立を目指すことである。具体的な課題は児童養護施設に入所する子ども達に対して日常生活場面において直接的な関わりを通して支援する職員に必要とされる基礎的な支援技術の修得を目指したスキルトレーニングプログラムを開発することである。このプログラムを「児童養護施設スタッフトレーニングプログラム」と命名して、開発を進めていった。スタッフトレーニング（以下、STと記す）プログラムの開発を行なったのは、我が国において児童養護施設職員の大部分が施設勤務決定後に日常的な実践の中で経験的に、若しくは意図的に設定された研修の受講を通して支援技術を修得していくにも関わらず、各種支援技術の修得を目指して具体的に整備された研修プログラムの種類及び数自体が非常に少ない現況にあるからである。本研究での課題は、プログラムの開発、さらにプログラムを受講した職員の変容の有無に注目して、その効果測定結果を提示することである。プログラム開発を行なうことによって、職員の専門性向上を目的とした研修プログラムのバリエーションが増加し、今後国内で、地域や施設形態、規模、対象等の相違に応じて複数の中から最適なプログラムを選択できるような研修体制整備に繋げていくことを展望している。

本研究では社会学的アプローチと社会臨床心理学的アプローチという2つの研究方法論を用いて開発を進めていった。それは職員の問題の中でも社会構造的な問題を分析し実態を把握するには社会学的アプローチが、職員個人の変容、職員集団の変容のメカニズムを解明するためには社会臨床心理学的アプローチが適するとの判断からである。本研究のように、実態分析に留まらず、明らかにした実態を改善、変容せしめることを目的としたプログラム開発という実証的研究においては、このような多様な方法論を組み合わせる必要があり、これが本研究の特徴であると言える。

本研究の構成および内容を以下に記す。序章にて研究の目的および研究の背景と枠組み・方法を提示した後、第1章にてプログラム開発のための事前調査の結果を提示した。第1節ではまず治療的支援に必要な職員のスキルに関する文献的検討を行った。その結果、児童養護施設の職員に求められる最も基礎的な支援技術は、子どもの現状を正しく把握するアセスメントの技術と、個々の特性の違いに対応した支援技術、そして自己覚知ではないかと判断された。次に実態調査によって児童養護施設入所児童および職員を取り巻く問題の把握と分析を行った。そこでは特別な支援や配慮を必要とする子ども達が数多く入所している中、職員の多くは経験が浅く、ベテラン職員に対するインタビュー調査においても支援技術に関する認識には共有された内実が脆弱な現況が確認されるなど、専門性向上を促す研修システムの構築が急務であることが把握された。これらからプログラム開発の意義を確認すると共に開発の方向性を示した。

そして、第2章においては職員が修正的接近を行う際に必要となる支援技術を獲得する方法論の検討をおこなった。子どもの適応行動を促進していくような支援技術の獲得を促すプログラムとしてペアレントトレーニングに着目し、特にNPO法人アスペ・エルデの会において実施されているペアレントトレーニングプログラムの特徴と有効性を提示した。その上でSTプログラムへの展開の可能性を示した。

第3章では第1から第3まで3つのフェイズに分けて、各フェイズ内において「試行、効果測定、改良」というサイクルを反復するというプロセスを経て開発を進めていった。第1フェイズでは施設外研修形式（児童養護施設9箇所の在職者および離職者が参加）によって、職員が支援技術を獲得することを目指して形成された仮説を試行していった。その後、第2フェイズ（児童養護施設2箇所）及び第3フェイズ（別の児童養護施設2箇所）にて施設内研修形式による仮説の試行を行ない、実証に導いていった。各フェイ

ズ毎、および施設内研修版 ST プログラム全体の効果測定を行った結果、プログラムの目標が達成されたことが確認された。

第4章ではプログラム開発のまとめとして職員変容のメカニズムを提示しプログラムの有効性等について総合的考察を行なった。職員変容のメカニズムは応用行動分析学（ABA）の観点からは、アセスメント時の視点および支援スタイルの2点において変容が確認された。認知行動療法（CBT）の観点からは、自己理解（自己覚知）に基づく行動の変容が確認された。さらに、職員変容によって生じた職員集団及び、職員集団によって調整される子ども達を取り巻く社会的環境の変容のメカニズムも提示した上で、プログラムの有効性と限界性について考察した。

終章では総括および今後の課題を提示してまとめとしている。本研究の意義は、児童養護施設現場における修正的接近に関わる実践や研究が少ない我が国の現況の中、職員の基礎的支援技術を示し、その技術修得のための具体的な方法をプログラム開発という実証的研究の中で導き出してきたことにある。さらに職員の連携体制の構築に関する方法論の提示も行い、いかに支援していくか、いかにケアしていくかという非常に具体的な方法について提案していることにある。残された課題としては、児童養護施設の抱える構造的な問題に関する課題、そしてプログラムの開発・改良・普及に関する課題の2点を挙げている。

このように、職員の専門性向上、人材育成に関して国内で共通したものが不明確な中、まずは共通するプラットフォーム部分の構築のために、出来る限り具体的な方法論を提案してきた本研究は、現況改善に繋がる一歩を踏み出した取り組みであったのではないかと考えている。